

●平成 24 年度一般前期試験(英語)講評

大学で求められる基本的な学力を試すことを念頭に、センター試験とは異なる視点で総合的な英語力を問う。具体的には、長文の内容を素早く読み取り、その要点を日本語・英語で簡潔に表現する力や、未知の語彙を文脈の中で推測する力、英検 2 級程度の基本的なリスニング力、自分の考えを英語で論理的に表現する力を試すことをねらいとしている。

I

テーマを把握し、文中で説明されている内容を正確に読み取ることができるか、また、読み取ったことを分かりやすい日本語にすることができるか、という力を試した。

課題としては、文の構造を正確に把握する力をさらに養成する必要があると考える。

設問3については、whether 以下の節が「～かどうか」という訳の補語としての働きに気づいていなかったり、文頭の what が関係代名詞であることを見抜けない受験者も多く見受けられた。

II リスニング

英検準 2 級から 2 級程度の難易度で出題している。アドミッション・ポリシーにある「十分な英語の基礎力」という観点から、センター試験のリスニング問題とは異なる形式で、英文で話される内容の全体像を捉える能力を試した。

*第一部：よくできていた。

*第二部：英文の説明を聞いて、何を説明しているか日本語で答える問題。正答率は 45% と低かった。

*第三部：比較的よくできており、正答率は 70% だった。

III

長文を読んで文脈を正確に把握できているか、また、その中で未知の単語に出会ったときに意味を推測して先へ読み進めることができるか、という力を問う問題であった。さらに、英語で問われたことに対して英文で答えることができるか、というコミュニケーション能力を試した。I と同様に、「基本的な構文に関する知識」を蓄えることが課題であると思われる。

設問2に関して、How ~ ? の質問に対して、どう答えてよいかとまどっている様子だった。問われていることについて主語・動詞がきちんと使えるか、という文法もポイントである。

特に(1)に関して、本文中の “my mother was divorced, remarried a Caucasian” や “divorce and interracial marriage” に気づくことがポイントである。これを解答用の英文としてうまく表現できていた受験生は少なく、写しただけの答案が多数を占めていた。

設問3(い)に関して、find it acceptable to ~ が「find + it + 補語 + to 不定詞」の構文になっていること、また、この形での find は「to 以下を～だと見なす/考える」と訳すことが多いことを把握できていない受験者が多くいた。「基本的な動詞の基本的な意味以外の

訳し方」をさらに身につける必要があると考える。

設問3(う)に関して、“out of necessity”を「必要性がない」と誤って解釈した受験生がほとんどであった。また、“local”を「地方」や「地域」と訳した受験生も多かった。修飾関係の誤解も見受けられ、“through years of trial and error”を“have had”を修飾するように訳した答案も多かった。

IV エッセイライティング

大学入学後に必要となる英文構成法に基づいて、論拠・理由を示しながら自分の考えを論理的に英語で表現できるかを試した。

試験においてエッセイを書く際には、いくつか重要なポイントがある。

まず、1つのパラグラフで書くように指示されている場合には決められた書式がある。インデント(1文字分スペースを空ける)をするのは最初の1行目だけである。しかしながら今年度の受験生は文章の中で何度もインデントを使っていた。

また、パラグラフを論理的な構成にするためには決まった型がある。トピックセンテンスで始め、サポートセンテンスでトピックセンテンスの説明をし、コンクルージョン(結論)で自分の意見を要約して締めくくる。採点の際に重きが置かれるのは内容と、この構成である。同じことを繰り返して書かないこと、つまり、意見をできるだけ簡潔で分かりやすく書くことに注意してほしい。

さらに、必ず設問をよく読むようにしてほしい。例えば、「なぜ学生は海外での学びを選択するのだろうか」という質問に対する答えは「国際的な教育への挑戦のため」というのが一般的な解答である。こういった場合には、解答者それぞれに当てはまる「海外で学びたい」という希望の解答を書き出せばよい。他にも、「外国語や第二言語の習得のため」、「異文化理解のため」、「自己の確立のため」、「自国の文化や国際関係などに対する新しい考え方の構築のため」などが考えられる。これがトピックセンテンスとして、いくつかのサポートセンテンス(トピックセンテンスの理由となる部分)を加える。説得力を持たせるために、理由は少なくとも3つは挙げたい。理由を並べる際には、「まず、」や「二つ目に、」「さらに、」といった言葉を使うと読みやすくなる。個人的なエピソードを書く場合には、コンクルージョンを印象付けるために最後の方に持ってくるのがよい。

見直しのポイントはスペルミスがないか、文法的、特に主語と動詞の形などに誤りがないか、そして設問に対して的確な答えになっているか、という点である。

受験者はこの形式に従ってパラグラフやエッセイを書くことで採点の基準を満たすことができるでしょう。